

## 大学の国際化による ソーシャルインパクト創出支援事業とは

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業は、大学等が教育研究活動を行う国内外の地域における課題について、その抽出から分析、解決策の検討及び提案、社会実装に至るまでの過程において、日本人学生と外国人留学生がそれぞ

れの文化的多様性を活かし共に学修することを「多文化共修」と位置付け、これらの共修科目や科目群・コース等の開発・実施・普及を推進します。文部科学省が令和6年度から実施した事業であり、本事業の採択大学

等が多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動が、国内外の課題解決の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出に繋がることが期待されています。



# 大学の国際化による ソーシャルインパクト創出支援事業

## タイプI

### ～ものづくりと地域社会に変容をもたらす グローバル技学共修教育モデル構築とR&D人材育成～

#### ご挨拶

本学は令和6年11月に文部科学省の令和6年度「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」(タイプI)に採択されました。事業構想名は「ものづくりと地域社会に変容をもたらすグローバル技学共修教育モデル構築とR&D人材育成」です。本事業を通じて、本学の特色であり、かつ強みでもある技学教育を発展させ、地域課題の解決を達成し得る人材を地域社会とともに育成する教育モデルの構築を目指します。

実践的な技術者教育である技学教育は、(1)産学連携による実践的なエンジニアの育成、(2)学部・修士一貫教育によるR&D人材の育成、(3)高専・技科大が連携した教育という3つの柱で構成されています。これらの柱に「多文化共修」を効果的に組み合わせることで「グローバル技学共修教育長岡モデル」を構築・展開し、科学技術イノベーションや社会実装といった大学

のアウトプットにより、アウトカムとしての「大学創出型ソーシャルインパクト」を生み出します。さらに、地方自治体及び高専と連携した多文化共修で地域課題に取り組み、大学・学生が地域社会に影響を与えることで生まれる地方自治体・地域企業によるアウトカムとしての「大学誘起地域創出型ソーシャルインパクト」を創出します。

本教育モデルの構築により、海外留学しない学生も含めた全ての学生がグローバルマインドを涵養できる教育研究環境(グローバルキャンパス)を実現します。このグローバルキャンパスで学び、高度な技術とマネジメント力を育んだ留学生が国内企業や地域企業を選び、日本へ定着することで、外国人材の活用や地域の活性化及び多様性を促進するべく、多文化共生を実現させます。

以上のように、技学教育とともに多文化共修を推進し、日本人学生、留学生、高専生がともに地方自治体

や地域企業に出向いて地域課題に取り組むこと、地方自治体や地域企業がR&D育成人材を活用することにより、ものづくりと地域社会に変容を促し、留学生の日本定着の促進にも繋げることで、日本から海外へ、また海外から日本へと「技術と人材の好循環」を持続的に生み出す仕組みの構築を進めて参ります。



長岡技術科学大学 学長  
鎌土 重晴

## ものづくりと地域社会に変容をもたらす グローバル技学共修教育モデルの構築と R&D人材育成

地域課題を題材とした多文化共修科目の導入により、真のグローバルキャンパスの実現と外国人R&D人材の日本定着及び日本人との多文化共生の促進を目指す。

日本人学生と留学生が地域課題に関する協働学習を行うことで

- 日本のみならず海外の地域課題を理解
- 互いの文化や考え方の違いを認識

させる。

これにより、日本人学生、留学生が互いに刺激しあうことで

- 日本人学生は社会や国に対する意識を高めるとともに、他国を理解し多様性を受容する態度を養う
- 留学生は日本社会の理解をより深めつつ、自国の課題を再認識することを旨とする。

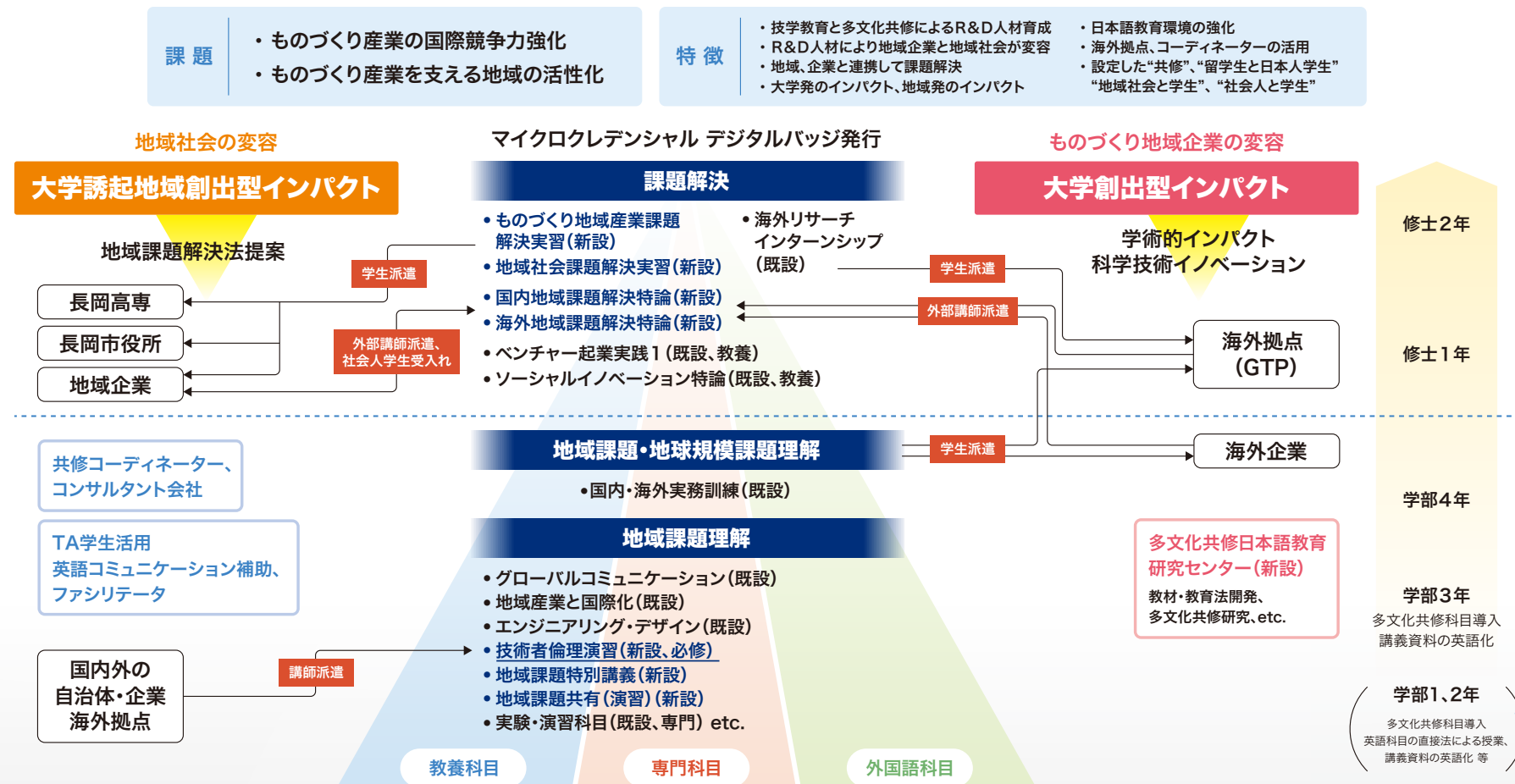
この多文化共修に自治体、地域企業、高専が加わることで、

- リアルな地域課題の解決に取り組める
- 留学生や幅広い年代の参画により課題解決に多角的な視点を取り入れられる
- 地域や企業の外国人材受入に対する意識が変わる

ことが期待される。



## 学部 — 修士一貫グローバル技学共修教育カリキュラム



## 育成する人物像

ものづくり地域産業と地域社会の変容を目指し、地域社会との協働により多文化共修を技学教育に組み込み、「グローバル技学共修教育」へと発展させることで地域課題の理解・解決を志向し、それを達成し得るグローバルR&D人材を育成する。さらに「実践の中から学理を引き出し、その学理を再び実践の中で試す」という技学の理念を具現化し、地方自治体、高専、海外拠点と協働して地域課題の解決を目指す実践的な多文化共修により、育成した人材を核として大学発、地域発ソーシャルインパクトを引き起こす。